



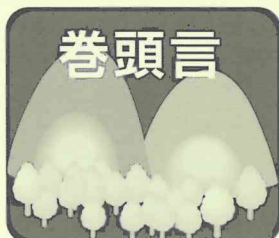
# 子ども樹木博士 ニュース

2011 - 6

No. 43

子ども樹木博士認定活動推進協議会

## 巻頭言



## おばあさんの植物図鑑

林野庁計画課 森林総合利用・山村振興室長 犬塚 昌良

今回の東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災されました皆様や関係の皆様に対しまして心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

林野庁では、仮設住宅用の木杭、合板等の緊急復旧資材や被災地の住宅資材用木材の安定供給といった復興支援に取り組んでいるところです。

先般、ふとしたことから「おばあさんの植物図鑑」(葦書房)という本と出会いました。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、その内容は、宮崎県椎葉村で焼き畑をして暮らしておられる高齢のご夫妻のお話であり、その奥さんの生活の知恵を紹介しているものです。奥さんは、幼い頃から焼き畑の手伝いを行い、その中で、食べられる植物、薬になる植物、生活に欠かせない植物、あぶない(毒のある)植物など生活に必要な知恵を学び、その里山からの恵みをいただく生活をしてこられた方で、その知恵と生活の一部を紹介しています。

60年ほど前までは、国民の多くが農林業を営み、里山は農山村に居住する人々の暮らしとともに守られながら利用され、薪や炭をはじめ里山からの多くの資源を活用して生活していました。しかし、現在では、都市で生活する方が増え、電気や化石燃料中心のライフスタイルが一般的となり、里山は放置され、その価値や機能が失われているところが多くなっています。

これからは、里山をはじめとする森林を国民共通の財産と位置づけ、国民参加で維持していく仕組みが必要ではないでしょうか。

そのためには、里山の多様な価値や風土に根ざした地域毎の取り組みを創出することが必要であり、林野庁では昨年度より、里山林の整備と里山資源の活用等を組み合わせて、自立・継続可能な取組を地域毎に実証・確立し、全国的に里山林再生の取組を拡大していく対策を進めています。

「子ども樹木博士」は、子どもたちを中心に多くの人々が樹木に触れて、その名前を知ることを通じて、里山や自然に親しみながら関心を深めてもらうものです。里山や自然について学ぶ、はじめの第一歩となる活動であり、森林体験活動・森林環境教育の一翼を担うものとして、誰もが取り組みやすく意義深い重要な取組だと思えます。

「おばあさんの植物図鑑」に出てくるような植物の名前を覚え、昔の生活に戻ることは難しいことだと思いますが、里山という身近なフィールドを活用して「子ども樹木博士」が全国にたくさん生まれることが、何百年、何千年かけて蓄積された「山で生きる知恵」や「自然とともに暮らす工夫」という遺産を後世に残すことにつながるかもしれません。

そんな思いを込めて、関係者の皆様には、引き続きこの「子ども樹木博士」の取組を推進していただくことを期待しております。

## 【目次】

巻頭言	おばあさんの植物図鑑	林野庁計画課 森林総合利用・山村振興室長 犬塚 昌良	1
事例報告Ⅰ	子ども樹木博士認定会の実施について	真庭森林組合 新山 隆弘	2
事例報告Ⅱ	樹木博士の講師として日々学習!	駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター 小林 大樹	3
特集Ⅰ	身近な里山の観察会に参加して	森林インストラクター 吉村 妙子	4
特集Ⅱ	世界に誇る学校の三大聖樹	森林インストラクター 齊藤 侑三	5
シリーズ	東南アジアの木々たち (12)	自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史	6
子ども樹木博士質問コーナー	茨城県植物園 緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄		7
事務局だより			8





## 子ども樹木博士認定会の実施について



真庭森林組合 新山 隆弘

真庭の地域は岡山県北部の林業が盛んな地域で、林野率79.2%、人工林率58.6%で、木材(素材)市場2社3箇所、製材31社、製品市場1社という土地柄です。

真庭森林組合では、小学生を対象に地元の「勝山美しい森」で野外学習会を開催し、子ども樹木博士認定会を、主に小学生を対象に自然や森林に対する関心を深め、みどりの大切さを知ってもらおうと年1回実施しています。



平成13年10月に第1回目を実施し、その後も毎年続けております。平成22年8月に第10回目を実施しました。小学生の延べ参加人数は、138人になりました。次世代を担う子ども達に森林や樹木に関心を持ってもらうこと、また、この学習会を行うことが山に係わる組織としての社会貢献の一つと位置づけています。もちろん今後も続けていく予定です。

参加した小学生から、「木の名前が覚えられて良かった。」「初めてだったけど友達も出来て楽しかった。」などの感想が寄せられています。

実施の状況は、主催・認定は真庭森林組合で、岡山県と真庭市に後援をお願いし、真庭市の施設を利用させていただいています。募集は小学生20人程度を予定して行っており、募集の方法は市の広報誌に予定を掲載するとともに、新聞社、ケーブルテレビ、緑の少

年隊等へ連絡しています。当日は午前10時から森林について学習会を行い、続いてインストラクター3~4名に生徒各5人ずつの班に分かれて、広葉樹林内の遊歩道脇の、あらかじめ選定しておいた50種類の樹木の名前と生態について約2時間学習します。各インストラクター役の人は色々と工夫をして、子ども達に分かりやすい表現で説明します。午後からは、先に樹木ごとに番号カードを付けた後、同じ班で解答用紙を持って同じコースを回り、50種類の木の名前を記入してもらいます。直ぐに採点して認定書の授与を行います。同時に楽しい思い出になればと考え、西瓜割りゲーム、くじ引き等を行っています。

これからの課題としては、小学生の人数が減少している中で、呼びかけや学習メニューにも工夫が必要と考えています。低学年生が高学年生と一緒にいることについて行けない状況になるので、学年差がつかないように配慮する必要があることと、低学年の子どもは木の根や株に足を取られて転ぶことも多く、怪我、まむし、蜂に注意し、とにかく怪我等が絶対にならないよう準備体制を作って実施したいと思います。また、女子がいる場合は女性スタッフを複数人配置するのを感じています。

今後は、地元の市・村の教育委員会を通じてインストラクターの養成や別の広葉樹林コースの設定、初回以降の参加者による記念の森づくりなども計画しています。将来にわたって続けていくことが大切であると思っています。





## 事例 報告Ⅱ

## 樹木博士の講師として日々学習！

北海道森林管理局 駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター 小林 大樹

一般の方から、森林管理局の職員といえば樹木のエキスパートと思われ、樹木の葉や枝、写真を持ち込まれ「これは何の樹？」と聞かれることも少なくありません。もちろん、何を聞かれても即座に回答ができるような詳しい職員も数多く在籍していますが、樹木図鑑を片っ端から調べて何とか対応している職員が大半ではないでしょうか。

こんなことを書くと、「樹木の名前も知らずに仕事をしているのか」とお叱りを受けそうですが、森林管理局には様々な仕事があり、それぞれの職務、広く森林・林業のエキスパートとして業務を行っています。

さて、私はというと、森林事務所（以前は担当区事務所と呼んでいました。）在籍中は天然林の収穫調査を行い、業務に必要な樹種の見分けは先輩から叩き込まれましたが、販売が目的の調査ですから木材として利用価値の低い樹種は「その他」と区分しており、それほど植物に関心のなかった私には覚える必要がなかったというのが正直なところです。

そんな私が、当ふれあいセンターで森林環境教育を担当することとなりました。樹木博士認定会では事前学習として、まず樹木の説明をしなければなりません。当然のことですが、講師としていい加減な説明をすることはできず、また分かりやすく説明するために、当初は図鑑を片手に事前学習のための勉強をしなければなりません。

参加者はまったくの初心者から私たちよりも詳しい方まで幅広く、皆さんが興味をもって聞いてくれるよ

うな工夫も必要なことから、葉の形や付き方、樹木の特性や利用などの基本的なことはもとより、日本の林業の現状から世界の森林の状況、時にはキノコなどの山菜の説明まで、参加者の年齢やレベルにあわせた説明をするよう心がけてきました。

当センターで実施している樹木博士認定会は、平成16年に設置した常設コースで主に実施しています。森林を散策しながら行うことから参加者には好評ですが、安全に認定会を実施するためには歩道の整備なども重要な仕事です。春には、冬の間で雪で折れた枝の撤去に始まり、ゴミ拾い、標識の設置、歩道の草刈りと多岐にわたります。また、林内にはツタウルシが多くありかぶれの心配もありますが、試験木として設定し、危険性を説明することで対応しています。

当地での子ども樹木博士認定会は、平成12年に北海道森林管理局函館分局で第1回を開催し、平成16年に当ふれあいセンターに引き継がれて11年が経過しました。当初は、函館分局構内で標本を使っただけの認定会でしたが、その後常設コースを設置して定期的で開催するようになり、また児童館等への出前講座も含めると、これまでに延べ1,723名の樹木博士が誕生しました。

今後も、できるだけ多くの方々に楽しく安全に認定会に参加していただけるよう、日々学習に努めるとともに、常設コースの整備・拡充を図っていきたくと考えています。





## 特集Ⅰ

## 身近な里山の観察会に参加して



森林インストラクター 吉村 妙子

木々の緑も鮮やかになり、樹木をはじめ自然観察にぴったりの季節です。春先には色が淡く柔らかな若葉が、しっかりと緑色の葉に成長して、子ども樹木博士には分かりやすい姿になってきました。

さて、近隣にある里山では熱心に保全活動や観察会が行われており、以前から気になるスポットでした。ちょうど春先の雑木林がきれいな時期でもあり、思い切って定例観察会に参加してみました。ご存じの方もいるかと思いますが、茨城県土浦市にある穴塚大池で活動されている、NPO 法人穴塚の自然と歴史の会の催しです。

春先の里山で、何が咲いているか、どんな生き物が見られるか、自然との出会いに期待して出かけました。自分たちのフィールドとの違いや共通点を見つけたりして、マイフィールドを再発見できたら、という期待もあります。

それに加えて、“視察”の楽しみです。「自分たちの自然観察を、もうちょっと広げたい」、「もうちょっと面白くできたら」と思うことがあり、「ほかの団体はどうやっているのかな」という興味もあって、観察会そのものも観たいものです。気になることを挙げてみると、たとえばスタッフの役割分担、観察会に使う道具の工夫や便利な小物、フィールドの整備、レクチャーのやり方、記録の仕方など、開催者の目線で知りたいことがいろいろとあります。

当日の朝は、遠くに低い雲が見えるものの、暖かで、天気は上り坂のようです。この日の観察会は記録することが中心とのことで、常連の方々がほとんどでしたが、ごく自然な感じで参加者の輪に混じることができました。スタッフの方に、初参加の挨拶をしつつ「実は、ほかの場所でこんな観察活動をしています。この里山を歩いてみたかったし、ほかのフィールドや団体の様子を知りたいという気持ちもあったので」と参加動機や興味があることも伝えてみました。スタッフの方は大変親切で気さくな方で、今日の観察会以外にも対象者の違ういろいろな活動をしていることや、

フィールドの成り立ちなど、合間には丁寧に説明してくれました。持ち主がよく手入れをしていた二次林は、研究者も驚くほど植生が豊かとのこと。また、持ち主の愛称で「〇〇さんの山」「△ちゃんの山」などと、場所々に名前があるそうです。昔ながらの里山の自然と手入れを尊重し、受け継ぎつつ、新しい活動を展開されていて、興味深い話がたくさん出てきました。

春真っ盛りの週末、田んぼ、あぜ道、ため池、斜面や尾根に交互に続く雑木林やスギ林、その中に点々とかかる淡いピンクの霞のようなヤマザクラなど、まさに日本のふるさとらしい里山の中を、その自然を詳しく見続けてきた方々の解説でたっぷり堪能しました。

私が定期的に通うフィールドはもう少し山地性の環境にあるようですが、共通して現れる草花も数多く見つかりました。そして、時間も忘れてチョウや花を追いかける大人の様子は、どちらもそっくりで、ちょっとうれしくなりました。

里山が一年で最も美しい時期に散策して、最高に気持ちのよい半日でした。自然や風景を楽しめたのはもちろん、観察会のヒントも得られました。自然観察の仲間や先輩があちこちにいるのが分かると、ほっとするし、心強くもあります。観察会への参加は、本当にいい体験でした。



ため池の周りに雑木林や田んぼが広がる穴塚の里山



## 特集Ⅱ

## 世界に誇る学校の三大聖樹

森林インストラクター 齊藤 侑三

私は地元の小学校の評議員をしています。校長先生から「イチョウは好きだが、学校のイチョウは嫌い」と、それは「学校の周囲の住宅から落ち葉の苦情が来るので、イチョウやメタセコイヤを伐りたい」と話がありました。

どの学校に行ってもイチョウ、ソテツ、メタセコイヤが植えてあります。しかし、「なぜ植えてあるのか」が忘れられています。

この3種の樹木には『世界に誇る偉業』が隠されており、学校の三大聖樹と言ってよい樹木で、ほとんどの学校に植えられているのです。

では、なぜ学校に植えられているのか。世界に誇る偉業なのかをひもといってみましょう。

ペリーが日本に来て開港を迫った頃、京都では、新撰組が潜伏する尊王攘夷論者・倒幕過激派などの取り締まりなどにあたっていました。

外国から見ればチョンマゲ姿で刀を振り回している、後進国で野蛮な国と世界から思われていた日本でした。それからたったの30年足らずで、世界に先駆けて樹木の仲間から精子を発見したというニュースには本当にびっくりしたと思われま

## 精子の発見と東大小石川植物園

イチョウの精子発見は1896（明治29）年で、帝国大学理科大学（東京大学理学部）植物学教室の助手の平瀬作五郎は、イチョウの精子が胚珠（はいしゅ）の中で泳ぐのを観察したという報告を「植物学雑誌」第10巻第117号明治29年（1896年）10月発行に発表しました。

種子植物としては世界で初めてのことでした。海で始まった生物が陸上で繁栄を始め、高等植物では精子を作るというような性質を失っています。

イチョウは生命が始まった海の記憶をとどめていることができます。日本人による世界的な大発見の第1号といえます。

引き続いて、明治29年11月の植物学雑誌第119号では、池野成一郎がソテツの精子を発見しています。

その精子発見のソテツの株は鹿児島で入手したので、運動しているのは観察出来ていませんが、精子の

形状をイチョウの標本と比較したところ、ほぼ同じと報告されています。

東京・小石川にある東京大学理学部附属植物園（小石川植物園）のほぼ中央に、精子発見のイチョウ雌木があります。木の根元には、精子発見60周年記念碑（1956（昭和31）年建立）と説明板が立てられています。

また精子発見のソテツの株が鹿児島県立博物館から同植物園に譲られ、正門近くに植栽されています。

このように、植物学術史上記念すべきイチョウとソテツが小石川植物園に保存されているのです。

この小石川植物園は貞享元年（1684年）に徳川幕府が設けた小石川御薬園で、8代将軍徳川吉宗の時代に設けられた「養生所（あるいは施療院ともいう。）」の井戸もあります。明治10年に東京大学が設立されると附属植物園となり現在に続いています。

次回から、イチョウ、ソテツ、メタセコイヤの説明をしましょう。



精子発見のイチョウ雌木



精子発見のソテツの株



# シリーズ

## 東南アジアの木々たち (12)

—この木って、どんな木—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

東南アジアの国々を訪れて、ふっと目についた「名前も知らない樹木たち」。新しい木々との出会いは、とても素晴らしいものです。誰もが、大きな感動と興奮に包まれる瞬間ですね。どんな人も好奇心を膨らませ、木の名前や特徴をもっと知りたくなることでしょう。

前回は、そんな名前のわからない南国の木々を、どのように調べるかについて、少しだけお話をしました。「外国の植物」を知ろうとする時に、とても重要な手

掛かりを与えてくれるのが、生物に付けられる世界共通の名前「学名」(がくめい)でしたね。

東南アジアには「ミャンマー」(ビルマ)という国があります。この国の人々のお顔を見ると、何やら「淡い黄白色の粉」が塗ってあることに気がきます。あれっ? 皆さん何を塗っているんだろうか? と興味津々です。何でも、「タナカ」と言う木を削った粉末「タナカ・パウダー」(TANAKA(Thanaka) POWDER)を塗っているそうです。



タナカの粉末と、それを水で溶いて塗った様子

この「木の粉末」には、「伝統的美容成分」が含まれていて、お隣の国「タイ」でも美容化粧品に配合されたりします。実際に、粉末を水で溶いて肌に塗ってみると、ひ~んやりと涼しくなります。それが乾くと薄い層になって、強い陽射しから素肌を守ってくれます。皮膚の炎症を抑え、葉や根にも数々の薬効があるそうですよ。

では、タナカと呼ばれるこの樹木って、いったいどんな木なんでしょうか。きっと、誰もが気になる

ところですね。少し調べてみると、「*Murraya paniculata*」や「*Murraya exotica*」の「学名」にたどり着きます。

海外サイトを調べると、この2つの学名は「Synonym」(シノニム) = 「両者は同じ種」(異名同種)との表示が記されています。そして、この樹木は日本の沖縄方面や園芸店などでも見掛ける「ゲッキツ」(ミカン科)の学名である事が判りました。 つづく...



タナカの販売風景

ゲッキツの白い花と赤い果実



## 子ども樹木博士質問コーナー

茨城県植物園 緑のインタープリター  
森林インストラクター 堀内 孝雄



これまでに寄せられた多くの質問の中から、一般的、共通的な質問についていくつか回答を掲載します。

**Q** 公園に植えられているヤマブキは実がならないといわれますが、どうしてでしょうか。

**A** 実をつけないのはヤエヤマブキです。春に山吹色といわれる黄金色の花をつけるヤマブキ (*Kerria japonica*) は、万葉集や源氏物語など多くの古典に登場しています。そして、古くから、実をつけない八重咲きのヤエヤマブキが知られていました。

後拾遺和歌集 (1086 年) にある「七飯八重花は咲けども山吹のみのひとつだになきぞ悲しき」の和歌は、太田道灌の故事とともによく知られていますが、この山吹はヤエヤマブキが詠まれたものです。

ヤエヤマブキ (*f.plena*) はヤマブキの園芸品種で、花の雄しべが花弁に変化し八重になったものです。雌しべも退化しています。このため果実ができないのです。八重咲きは、花弁あるいは花被の数が、その種の基本数よりも多い花のことです。本来の数のものを一重咲きといい、八重の程度により半八重、八重、菊咲きなどと呼ばれ、区別されることがあります。ヤマブキにも花弁がキクのようなキクザキヤマブキ (*f.stellata*) という品種があります。



ヤマブキの園芸品種・ヤエヤマブキ

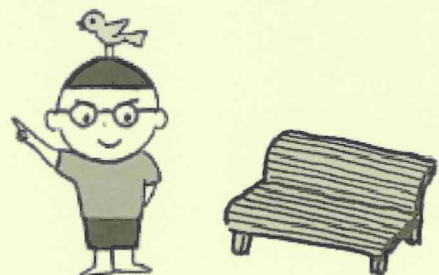
**Q** マタタビはネコの好物で、マタタビを与えると酔ったように興奮するといわれますが、本当でしょうか。また、山菜や薬用に利用されるといわれますが、どのような植物ですか。

**A** 6~7月頃の山地では、葉の表面が白く変化したつる性植物のマタタビが目につき、忘れられない光景が見られます。旅人がマタタビの塩漬けの実を食べて元気を取り戻し、また旅を続けることができたという、語呂合わせのような話のあるマタタビですが、ネコの好物であることは確かです。

ネコにマタタビ、泣く子にお乳などと昔から好物の代表、効果の著しいことの例えとされています。マタタビにネコが特別の反応を示すのは、マタタビラクトン、アクチニジンという成分がネコの中樞神経に作用するからです。このためネコは陶醉状態になります。子ネコよりも大人のネコ、雌ネコよりも雄ネコの方が反応は強いといえます。

みやげもの店などで見られるマタタビの実のビン詰のように、マタタビは山菜として利用されます。若葉や花はゆでてひたし物、和え物、炒め物などに、果実は生食、ゆでてひたし物、和え物、塩漬け、果実酒などに使われます。また、マタタビバエが果実に産卵してできた虫えいは木天蓼 (もくてんりょう) と呼ばれ、体を温める作用があり、強心、利尿、鎮痛、強壮などの漢方薬に用いられます。

マタタビによく似たミヤママタタビは、ネコには好まれないといわれます。





**Q** ゴールドクレストやスカイロケットなど、コニファーと呼ばれる木がありますが、もともとはどのような木ですか。

**A** ゴールドクレストはスギやヒノキに似た観葉植物で、鉢植えて観賞されたり庭木として植えられて人気のある樹木です。このような樹木はコニファーと呼ばれ、数多くの種類があります。

ゴールドクレストは、北アメリカの太平洋岸を原産地とするヒノキ科イトスギ属のモンレーサイプレス (*Cupressus macrocarpa*) の園芸品種です。イギリスで作られ出したといわれます。強い日差しで黄金色になり円錐形の樹形が美しい木です。葉をちぎるとよい香りがし、サンショウの香りがするといわれます。モンレーサイプレスには、他にオーレアという品種や鉢植え用の品種ウイルマなどがあります。

スカイロケットは、北アメリカ西部に分布するコロラドビャクシン (*Juniperus scopulorum*) の園芸品種です。名前のとおり樹形が素晴らしいので人気がある

品種です。このほか、コロラドビャクシンには、ブルーヘブン、ブルーエンジェルなど多くの品種があります。

コニファー (conifer) は、もともと松ぼっくりなど球果 (cone) をつける植物やコニカル (conical)、すなわち円錐形になる植物という意味です。したがって、針葉樹を指していますが、一般には園芸品種の針葉樹、観賞価値の高い針葉樹をコニファーと呼んでいます。



コロラドビャクシン “スカイロケット”

## ● ● 事務局だより ● ●

◆去る3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生後はじめての「子ども樹木博士ニュース」です。先ずもって、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。また、同時に、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

◆本号から特集Ⅱとして、森林インストラクターの齊藤さんに樹木に関する興味深いお話をお願いすることとしました。早速、イチョウやソテツの精子発見、その記念すべきイチョウとソテツが東京大学の小石川植物園に保存されていること。・・・次号以降も楽しみです。(O)



新しい樹木ガイド  
(定価：500円)

### 子ども樹木博士ニュース

2011年6月1日 No.43

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階

(社) 全国森林レクリエーション協会内

TEL: 03-5840-7471 FAX: 03-5840-7472

E-mail: kodomohakase@shinrinreku.jp

URL: <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>